

| | | | | |
|----|------------------------------|--|-----------|---------------|
| 日本 | 新潟大学脳研究所 | | 2015.8.1 | 5年間 (自動継続) |
| 日本 | 中部大学創発学術院 | | 2016.9.2 | 5年間 (自動継続) |
| 日本 | 公益財団法人鹿児島市水族館公社 (かごしま水族館) | | 2016.11.1 | 5年間 (自動継続) |

3. 学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

豊田有（課程）：Studies on male mating strategy, reproductive success, and copulation related behaviors of stump-tailed macaques in Khao Krapuk Khao Taomor Non-Hunting Area, Thailand

（タイ王国カオクラプックカオタオモー禁猟区に生息するベニガオザルのオスの繁殖戦略と繁殖成功、および交尾関連行動の研究）

Liesbeth Martina Frias Villarroel（課程）：Host-parasite community interactions in a human-modified habitat
（人為的攪乱を受けた生息環境における宿主-寄生虫間の交渉）

Cecile Anna Sarabian（課程）：Exploring the origins of disgust: Evolution of parasite avoidance behaviors in primates

（嫌悪の起源を探る：霊長類における寄生虫回避行動の進化）

小笠原宇弥（課程）：黒質-線条体ドーパミン神経系が反応抑制に果たす役割の解明

入口真夕子（課程）：Modulation of colour and odour perception, and cross-modal correspondences for women in the menstrual cycle and menopause

（月経サイクルと閉経における色とにおいの知覚と多感覚の調整）

京都大学修士（理学）

BROCHE JR. NELSON：ニホンザルにおけるストレスの指標としての α -アミノラーゼ酵素に関する研究

大塚友紀子：霊長類における神経回路への介入操作に適する逆行性感染型ウイルスベクターの開発

岡田佐和子：ニホンザル精巣における遺伝子発現プロファイリングと発育動態の解明

木村慧：霊長類脳への神経細胞特異的かつ高効率な遺伝子導入を実現する改変 AAV ベクターの開発

柴田翔平：カリンズ森林保護区におけるオスチンパンジーの分散傾向と攻撃行動

瀧山拓哉：聴覚刺激の弁別における時間的特徴および周波数帯域の影響について：チンパンジーとヒトを対象にした比較認知科学的研究

仲井理沙子：チンパンジー/ヒト iPS 細胞を用いた初期神経発生動態の誘導と解析

李婉儀：ニホンザルの腸内細菌叢に人間活動が与える影響

YAN XIAOCHAN：スラウェシマカク 4 種の苦味感受性の特徴

4. 外国人研究員

招へい外国人学者・外国人共同研究者

V Romano de Paula（フランス ストラスブール大学・大学院生）

（2017.11.27～2019.2.13）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：環境圧力、社会性、健康における関連性の理解

J Duboscq（フランス 所属・無）

（2017.9.9～2018.6.17）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：マカク類の感染症が宿主の行動に与える影響とそのリスク評価

B Kubenova（チェコ 南ボヘミア大学）

（2017.11.1～2019.10.31）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：ニホンザルにおける乳幼児 handling および乳幼児とワカモノの社会関係の形成

X Bal（イタリア パヴィア大学・大学院生）

（2018.3.13～2018.9.29）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：ニホンザルにおける乳幼児 handling および乳幼児とワカモノの社会関係の形成

C Ejikeugwu（ナイジェリア エボニ州立大学）

（2018.4.15～2018.9.30）